

2009年度 第15回FDフォーラム

学生の学びを支える
—— つなぐFDの展開 ——



15TH FACULTY DEVELOPMENT FORUM

2010年3月6日[土]・7日[日]

同志社大学 今出川校地

1日目:室町キャンパス 寒梅館

2日目:新町キャンパス 尋真館・臨光館

主催:  財団 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto

後援:文部科学省・京都府・京都市

学生の学びを支える — つなぐFDの展開 —

FD義務化の下、「FD」と称する研修機会は広く普及してきたが、FDのあり方についてはさまざまな課題が残されており、「実質的なFD」の実現が求められているところである。FDは、基本的に、学生の学びの活性化に結び付く必要があるが、それを実際にもたらし得るFDを「実質的」と呼ぶことができるであろう。しかし、大学がいかに「よい」教育環境を準備し、教員がいかに「よい」授業を準備したとしても、それだけで学生の学びが活性化するとは限らない。教育や学びは、そこに参加する者の双方向的なやりとりのなかで創り上げられていくものである。そこで、ここでは、それを表すひとつのキーワードとして、「つなぐ」ということに焦点を当ててみたい。シンポジストより、学生・職員・教員・大学といったいくつかの相における「つなぐ」試みと可能性について話題提供いただき、フロア参加者との議論を通して、学生の学びを支える実質的なFDのあり方に迫る機会としたい。

シンポジスト

学生をつなぐFD



橋本 勝 氏
(岡山大学教育開発センター 教授)

【経歴】
岡山大学教育開発センター教授。FD部門長。全学FD委員会の創設時からの唯一のメンバーでいわば大学内ではFDの「生き字引」的存在。但し、出身の京都大学及び同大学院では経済統計学が専門で教育学とは無縁。岡山大学の学生参画型教育改善の黒幕。中・大規模クラスで全体討論型授業を行う橋本メソッドの開発・推進者。大学教育学会常任理事、大学評価学会理事。
主著：『学生と変える大学教育』『学生・職員と創る大学教育』（いずれもナカニシヤ出版）。

職員をつなぐFD



神保 啓子 氏
(名城大学大学教育開発センター 主査)

【経歴】
2002年3月名城大学大学院博士前期課程生命農学専攻科修了。2002年名城大学に勤務。教務課、大学教育開発センター、学務センターを経て、現在、大学教育開発センターでFD(ファカルティ・ディベロップメント)、入学前教育などの仕事を通して大学教育に携わる。この間、2006年名城大学大学院・学校づくり研究科に入学、2008年3月修了。研究テーマは「価値創造FDマネジメントの方法—コミュニティ・オブ・プラクティスのモデル」。

教員をつなぐFD



圓月 勝博 氏
(同志社大学教育支援機構長 文学部 教授)

【経歴】
1995年より文学部教授。2007年より教育支援機構長。同志社大学大学院文学研究科修士課程およびインディアナ大学大学院英文学専攻修士課程修了。
【専門領域】
専門は「英文学」。

【主な活動や著書】
現在、大学教育学会理事、大学基準協会正会員資格判定委員会副委員長、日本私立大学連盟FD推進会議運営委員会委員長。
主な著書『学生の教育評価の国際比較』(東信堂、共著)、『学生と創る大学教育』(ナカニシヤ出版、共著)、*The Cambridge Companion to John Dryden* (Cambridge UP、共著)。

大学をつなぐFD



小田 隆治 氏
(山形大学高等教育研究企画センター)

【経歴】
北里大学医学部助手、山形大学教養部助教授を経て、2003年度より現職。
筑波大学大学院修了(理学博士)。
【専門領域】
専門は「生物学」「大学改革」。

【主な活動や著書】
2005-07年山形大学学長特別補佐。現在、「FDネットワークつばさ」議長。
主な著書『生物学と生命観』(培風館)など。

コーディネーター



大塚 雄作 氏 (京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)

【経歴】
大学入試センター研究部助手、放送教育開発センター研究開発部助教授・教授、メディア教育開発センター研究開発部教授、大学評価・学位授与機構評価研究部教授を経て、2004年10月より現職。東京大学大学院教育学研究科教育心理専門課程博士課程単位修得退学。

【専門領域】
専門は「教育心理学」「教育評価」。
【主な活動や著書】
現在、大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会委員など。主な著作『授業評価活用ハンドブック(山地弘起、編、玉川大学出版部)』、『高等教育の個別の実践と普遍的理論化の狭間で—大学評価・FD実践の体験を通して—(高等教育研究、第10集、111-127、日本高等教育学会)』など。

情報交換会

開催時間 17:30~19:00
会 場 平安会館 東山の間
(京都市上京区烏丸通上長者町上ル TEL: 075-432-6181)
U R L <http://www.heian-kaikan.com/>



第1 ミニシンポジウム
「学生の支えとなるキャリア教育の構築を目指して」

経済情勢の悪化により厳しい就職環境が続く中、就職活動中の学生の多くは焦燥感に駆られながら大学生活を送ることを余儀なくされ、新入生も余裕を持って人生設計を立てることが困難になってきている。このような環境に翻弄される学生を支えるものとして大学のキャリア教育にはこれまで以上に大きな期待が寄せられている。本ミニシンポジウムでは、「学生の支えとなるキャリア教育を支える“人”と“組織”」、「採用面接において企業は学生の何を評価しているのか」、「女子学生のキャリア形成と男女共同参画社会の実現を目指すプログラム構築」といったトピックを報告者に提供して頂く。フロアからも積極的に情報や意見を出して頂き、参加者全員にとって学生を支えるよりよいキャリア教育を作り出す契機となるようなミニシンポジウムを目指したい。

- コーディネーター**
金谷 益道氏 同志社大学 文学部英文学科 准教授
報告者
松高 政氏 京都産業大学 全学共通教育センター 教授
岩脇 千裕氏 労働政策研究・研修機構 研究員
森 邦昭氏 福岡女子大学文学部 教授 キャリア支援センター長

定員：200名

第2 ミニシンポジウム
「社会人を対象としたフルオンライン学習提供の可能性」

通信制学部・大学院を併設する大学においては、多様な学生の学習環境システムを構築・提供することが求められている。しかしながら、いずれの大学においてもその質保証については多くの課題をかかえているのが現状である。そこで、本ミニシンポジウムにおいては、先進的な取り組みを行っている大学・大学院の実践経験から、フルオンラインの提供において教育の質を保証するために、教育の実践で配慮すべきこととは何か、フルオンライン教育の質保証のためのFDへの取り組みはいかにすべきか、フルオンライン教育実践に伴う教員の側の認識・教授法等いかなる影響を与えているのか、フルオンライン教育の実践をすることにより、対面授業に反映されたFD効果(授業方法や教材開発、学習者支援における自発的改善など)とはいかなるものかについて検討していきたい。

- コーディネーター**
藤松 素子氏 佛敎大学社会福祉学部 教授 教授法開発室長
指定討論者
篠原 正典氏 佛敎大学教育学部 教授
報告者
松井 辰則氏 早稲田大学人間科学学術院 人間情報科学科 教授
中野 裕司氏 熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授システム専攻 教授
不破 泰氏 信州大学大学院 工学系研究科 教授

定員：170名

第3 ミニシンポジウム
「FDを推進、支援するトップマネジメントの役割」

FD活動を実質化するには、教員による自主的・自律的な取組が不可欠であること言うまでもない。その教員の個人的・集団的な日常的教育改善の努力を促し、多様なアプローチを組織的に進めていくためには、学長、学部長によるFD推進の意思表示と取り組みへの理解が大きな推進力となる。文部科学省大学連携支援事業による京都地域FD連携プロジェクトでは、上述の観点から、学長、学部長、理事会メンバー等を対象としたFD管理職研修を企画している。今回は、京都地域の3つの大学から、学長または副学長に各大学のFD活動の現状と、トップによるFD推進の具体例をご紹介いただき、教員管理職の役割について検討する機会を持ちたい。

- コーディネーター**
深野 政之氏 京都FD開発推進センター 専門研究員
報告者
清水 稔氏 佛敎大学 副学長
河野 勝彦氏 京都産業大学 副学長
指定討論者
池田 輝政氏 名城大学 副学長 理事

定員：270名

第1 分科会 「2年次以降につながる初年次教育」

初年次教育におけるアカデミック・ライティングの技法や、資料収集法、ディスカッションによるアイデアの展開などは、大学における学習・研究にとって確かに不可欠なものである。しかしその一方で、初年次教育にはそのような学びのスタイルを習得すること以外の期待もこめられている。具体的にいえば、毎回出席し共同作業するという授業のリズムを他の科目よりも強調することによって、学生間のつながりを深め、大学に定着するきっかけを作るといったことである。しかし、後者への期待が強調されればされるほど、授業の内容ではなく、その場の作業をこなすことだけが注目され、肝心の授業内容は1年次修了と共に忘れてしまったという話も聞かえてくる。両者のバランスをどのようにとるか。実際に学生の力になる初年次教育とは何か。本分科会では、初年次教育を、学生の定着のみならず2年次以降の学びにどのようにつなげることができるかについて、発表者による事例の紹介と分析をもとに検討していく。

- コーディネーター**
藤枝 真氏 大谷大学文学部 准教授
報告者
木越 康氏 大谷大学文学部 准教授 学生部長
本田康二郎氏 同志社大学商学部 講師
杉谷祐美子氏 青山学院大学 教育人間科学部 准教授

定員：50名

第2 分科会 「講義の復権 —理論・実践からの分析—」

ユニバーサル段階を迎えた日本の大学教育において、今その授業の在り方が厳しく問われている。従来の一方向的な、知識伝授型の講義形式には限界が指摘される一方、学生の主体的な参画を促す、双方向性が確保された授業の必要性が強調されているのである。実際に「グループ学習」や「プロジェクト学習」など学生の能動的な学習姿勢を促す様々な授業方法が開発されている。こうした授業改革の流れは学生の気質の変化に伴い不可欠ではあるものの、一方で「講義」の有用性を必要以上に否定しているようにも思われる。果たして知識伝授型の講義は、もはや意味がないのであろうか。さらには現代の大学教育に必要とされる「講義」とはいかなるものであるうか。こうした問題意識をもちつつ、本分科会では「講義」を理論・実践の側面から分析することとし、3人の研究者に報告をしていただく。そして報告及び議論を通じて、参加者一人一人が日常の活動に参考となる分科会を目指していく。

- コーディネーター**
國安 俊彦氏 京都外国語大学・短期大学 キャリア英語科 准教授
指定討論者
村上 正行氏 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 准教授
報告者
安川 哲夫氏 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授
梶川 裕司氏 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 副センター長 教授
大島 武氏 東京工芸大学芸術学部 准教授

定員：50名

第3 分科会 「地域連携が大学教育にもたらすもの」

近年各地の大学が導入している「地域連携型教育」とは、キャンパス内の学習だけでは得られにくい類の能力をキャンパス外の実社会での様々な体験を通して、学生に身につけさせようという試みである。そういった「キャンパス内学習では得られにくい能力」は、従来、大学教育の主たる目標とは考えられていなかったものであり、その育成を主たる目的にするカリキュラムのひとつとして、地域社会と連携した教育プログラムを大学が導入するようになったと言える。ただ、これらの教育プログラムは様々な点で、従来の大学カリキュラムの枠組みに整合しにくい問題点を持つ：授業(実習)時間の不規則性、半年の学期で完結する科目との時間的不整合性、成績評価の方法など。第3分科会では、地域社会との連携を活用した教育プログラムを実施している3大学にそれぞれの取組を紹介頂き、地域連携型教育の在り方について検討する機会を提供したい。

- コーディネーター**
三浦 潔氏 京都文教大学 人間学部現代社会学科 教授
報告者
真鍋 和博氏 北九州市立大学 地域創生学群 准教授
住吉 廣行氏 松本大学 副学長
齊山美津子氏 神戸女子大学 文学部教育学科 教授

定員：50名

第4 分科会 「学生による授業アンケートの理論・手法・活用」

第1に、授業アンケートから何が読み取れて何が読み取れないかについて、理論面と、実践を通じた結果分析の面からご報告いただく。「学生による授業アンケート」については、未だに「意味が無い」という声もあるし、授業アンケートだけで教員の教育貢献度を測る大学もある。今一度、原点に戻って考える。第2に、「学生による授業アンケート」の手法を考える。授業アンケートを紙ベースで行うことは、資源浪費・集計に手間取る・費用がかさむ、という3点で改善が望まれる。WEBによるアンケートは回収率の低下が課題となる。その点、携帯電話によるアンケートは回収率の低下を回避しつつ、上記の課題を克服できる手法である。第3に、「学生による授業アンケート」の教員組織としての活用の実践報告をいただく。授業アンケートの結果を個々の教員にフィードバックするとこで終わってしまう大学が多い。多大なエネルギー・資金を注ぎこむ授業アンケートであるから、さらに「ファカルティによる活用」に繋げなければもったいない。午後はこの3つのテーマについて小グループに分かれて自由討議とその報告を行う。

- コーディネーター**
松本和一郎氏 龍谷大学理工学部 教授 大学教育センター長
報告者
大塚 雄作氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授
福永 栄一氏 大阪成蹊大学 現代経営情報学部 准教授
小田 隆治氏 山形大学 高等教育研究企画センター

定員：50名

第5 分科会 「教養教育の再構築」

ヒューマンリズムの核心を成すのは、古代ローマの自由市民の在り方を示す humanitas・「人間性」であり、それを陶冶することが cultura animi・「魂の耕作」、つまり「教養(文化)(culture)」である。また、『自己評価21』に、教養教育とは「…事物を多角的にみる能力及び豊かな人間性・知性を養うための教育」とある。しかし、そのような根本的で総花的な規定を示されても実際に教養教育を担当する者は微苦笑を浮かべるだけであろう。基礎学力どころか基本的な世間知もなく円滑な人間関係の形成が困難な多くの学生をかかえて、どのように広範な一般教養を教えることができるのかと悩む教員は多いはずである。教養教育といっても一般(教養)教育と補習教育の合体形態が現実的であると云えよう。何れにせよ、日本語で教育する限り、学生達の母語能力の乏しき故に、教養教育は実質的に日本語の読み書き話し方の補習と同調して展開されるものかも知れない。議論する問題は多いと言えよう。

- コーディネーター**
秋澤 雅男氏 京都薬科大学一般教育分野 教授
野田 四郎氏 京都ノートルダム女子大学 人間文化学科 教授
報告者
奥田 雅信氏 大手前大学総合化学部 准教授
菊池 重雄氏 玉川大学経営学部国際経営学科 教授 学士課程教育センター 副センター長
慈道 裕治氏 立命館大学政策科学部 教授 教養教育センター長

定員：50名

第6 分科会 「芸術系領域における教育の可能性」

本分科会で中心テーマにする芸術系領域におけるFDは、現時点でその活動もあるべき姿もあまりはっきりした形になっていない。それは、芸術系に関しては海外から紹介されるFDのモデルや研究が少ないからという理由も考えられるが、芸術系分野の有する特殊な事情、例えば、実技を中心とするカリキュラム運営や細分化されたコース教育なども影響していることは確かである。しかし、そもそも「創り出すこと」を本義とする芸術系教育において、教育や学びの新しい創造的な展開は、教育そのものの可能性としてだけではなく、芸術の可能性に通じるものである。本分科会では、学びの現場で学生とのより良い関係性の構築を目指しながら、新しい枠組みから芸術系教育にアプローチしている教育実践の発表報告を手がかりに、フロアの皆さんとともに、芸術系教育における新しい展開のキーワードを探っていきたい。

- コーディネーター**
高橋 伸一氏 京都精華大学文学部 教授 共通教育センター長
報告者
竹宮 恵子氏 漫画家 京都精華大学マンガ学部長 教授
椿 昇氏 現代美術家 京都造形芸術大学芸術学部 教授
指定討論者
吉田 文氏 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授

定員：50名

第7 分科会 「障がい学生支援の実践と課題」

大学教育においては、すべての学生が等しく質の高い教育の機会を保障されなくてはならない。そのためには障がいのある学生も、健常な学生と同等に正課を受け、また課外活動に参加できるような環境を作り出すことが肝要である。すなわち障がい学生に対する様々なサポートの充実や、大学生活におけるユニバーサルデザイン化に取組むことが求められている。その際大切なのは、障がい学生支援が決して特別なことではなく、ごく当然の行いであることが自覚していくことだろう。またそのような自覚をもつ学生を育てること自体、大学教育における重要な使命の一つなのではあるまいか。とはいえ、障がい学生支援を具体的にどう展開していくかについては、それぞれの大学でまだまだ暗中模索の段階であろう。教職員の多くも、どのような配慮をすればいいか十分に認識しているとは言いがたいように思われる。そこで本分科会では、この分野における先進的大学の事例報告や提言を聞き、参加者による積極的かつ創造的な意見交換を行いたいと考えている。

- コーディネーター**
中野 智世氏 京都産業大学経営学部 准教授
報告者
土橋恵美子氏 同志社大学学生支援センター 障がい学生支援室 学生支援室コーディネータ
佐野真理子氏(藤田) 広島大学大学院総合科学研究科 教授 アクセンビリティセンター長
石田 久之氏 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授 特学学長補佐(学生支援SD担当)

定員：50名

第8 分科会 「高等教育の多様化ニーズと短期大学の課題」

明治以来、欧米型(当初はドイツ型、その後アメリカ型)の高等教育を受容したわが国も、多様化した職業や社会のニーズに適合した、あるべき高等教育の姿を自ら模索する時代に入ったといえよう。かつて、ヨーロッパで高等商業学校や高等工業学校が、またアメリカでも工学分野の諸学校が、社会の進展に伴っていわゆる大学(university)に編入され、あるいは新しい大学の中核となっていったように、変容する社会の新たな担い手を養成する役割は、既存の4年制大学の外延部にこそあるように思われる。その意味で、高等教育の単線化は、わが国の置かれている少子高齢化社会状況を固定化し、社会や高等教育の多様な可能性を奪うことにもなりかねない。そこで、4年制大学よりも社会とのアクセスが迅速できめ細かいFDの実績もある短期大学の活動事例を参考に、複線型高等教育の一方を担うべき短期大学の「あり方」について、活発な意見交換を行いたい。

- コーディネーター**
今井 薫氏 京都産業大学 リエゾンオフィス長 法務研究科 教授
報告者
鳥丸佐知子氏 京都文教短期大学 幼児教育学科 准教授
新島 陽子氏 京都文教短期大学 教務部教育研究支援課 係長
塚本 泰造氏 宮崎学園短期大学 FD推進委員長 准教授
佐藤 清彦氏 湘北短期大学 事務局長 教務部長

定員：50名

第9 分科会 「双方向型授業への誘い」

日本より早くユニバーサル段階に達したアメリカでは1980年代後半から知識伝授型の教える授業という古いパラダイムから、授業は教員と学生がともに作るものという新しいパラダイムへの転換が提唱され、学生参加型双方向型授業が始められたが、日本ではいまだに古いパラダイムの授業が大半である。最近の中教審審申では双方向型の授業が不可欠であると強調されるようになったが、実際の授業の現場では双方向型授業の展開に取り組む教員はまだ少ない。今回は双方向型授業を目指して試行錯誤を重ねてこられた3人の方々からの報告をもとに、参加者とともに双方向型授業の意義と今後の課題について意見を交換したい。また、時間の許す限り、参加者からの実践報告も歓迎したい。この分科会では、午前の部で3人の報告を受けた後、参加者が4つのグループに分かれて交流とグループワークを行い、最後にその結果を持ち寄り予定である。

- コーディネーター**
木野 茂氏 立命館大学 共通教育推進機構 教授
報告者
梅村 修氏 追手門学院大学 国際教養学部アジア学科 教授 教育研究所長
大崎 雄二氏 法政大学社会学部 メディア社会学科 教授
杉原 真晃氏 山形大学基盤教育院 准教授

定員：60名

申込期間

2010年1月15日[金]～2月3日[水] 【参加費支払締め切り：2010年2月14日(日) 24:00まで】
加盟大学・短期大学 優先受付期間：2010年1月8日(金)～1月14日(木)

※財団法人大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、優先受付期間を設けています。
 非加盟校の方は、1月15日以降にお申込下さい。

申込方法

申込み完了までの流れ

1日目に開催するシンポジウムのみ、当日参加が可能です。(80席限定先着順)

| | |
|------------------------|-----------------|
| STEP 1 | お申込み |
| STEP 2 | 参加費のお支払い |
| 今回より参加費は事前の支払いとなっております | |
| STEP 3 | 参加許可証が届く |
| STEP 4 | 当日 |

下記アドレス、もしくは財団法人大学コンソーシアム京都ホームページ上の「参加申込フォーム」に必要事項を入力し申込み手続きを行って下さい。[当財団のトップページにバナー(専用ボタン)を用意致します。]また、申込み手続き完了後の変更は一切受け付けられませんのでご注意ください。
 申込み手続き完了後に「申込み完了メール」をお送り致します。(翌日になっても申込み完了メールが届かない場合は大学コンソーシアム京都(担当:平井)までお問い合わせ下さい。)
 ※2010年1月8日(金)～14日(木)は、財団法人大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の優先受付期間となっております。この期間は、非加盟大学の方はお申込みできませんので、予めご了承ください。

申込み手続きが完了した方には、後日、郵送にて払込票(請求書)をお送りいたしますので最寄りのコンビニエンスストアで参加費の支払いを行って下さい。取り扱い可能なコンビニエンスストアは同封している払込票の裏面をご覧ください。
 なお、銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。
 また、お申込み手続きと参加費のお支払いが完了していない方は参加できませんのでご注意ください。

【支払締め切り：2010年2月14日(日)24:00まで】

お振込いただく参加費につきましては、印刷費、webシステム運営費、通信費など、諸準備に使用致しますので、いかなる理由があっても返金等には応じられませんので、予めご了承ください。参加費をお支払いいただいたのち、やむを得ずご欠席された方につきましては、後日、FDフォーラム関連資料を送付致します。

参加費の支払いが完了した方には参加許可証をメールにて送信します。2月22日(月)になっても参加許可証(メール)が届かない場合は、大学コンソーシアム京都(担当:平井)までお問い合わせ下さい。

当日はプリントアウトした参加許可証(メール)を持参し、受付にて提示して下さい。
 ※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出下さい。

URL

<https://event.consortium.or.jp/fd15/>
 もしくは

大学コンソーシアム京都

参加費

| 所属 | 区分 | 情報交換会含む | 情報交換会除く |
|----------------|--------|---------|---------|
| 加盟 大学・短期大学 | 教職員 | 5,000円 | 3,000円 |
| | 学生 | 1,000円 | 無 料 |
| 非加盟 大学・短期大学 | 教職員、一般 | 7,000円 | 5,000円 |
| | 学生 | 2,000円 | 1,000円 |

第15回FDフォーラム企画検討委員会

- | | |
|--|---------------------------------|
| ★金谷 益道 [同志社大学文学部英文学科 准教授] | 高橋 伸一 [京都精華大学人文学部 教授 共通教育センター長] |
| ☆國安 俊彦 [京都外国語大学・短期大学キャリア英語科 准教授] | 野田 二郎 [京都ノートルダム女子大学人間文化学科 教授] |
| 秋澤 雅男 [京都薬科大学一般教育分野 教授] | 藤枝 真 [大谷大学文学部 准教授] |
| 大塚 雄作 [京都大学高等教育研究開発推進センター 教授] | 藤松 素子 [佛教大学社会福祉学部 教授 教授法開発室長] |
| 河原地英武 [京都産業大学教育エクセレンス支援センター 副センター長 教授] | 松本和一郎 [龍谷大学理工学部 教授 大学教育センター長] |
| 木野 茂 [立命館大学共通教育推進機構 教授] | 三浦 潔 [京都文教大学人間学部現代社会学科 教授] |

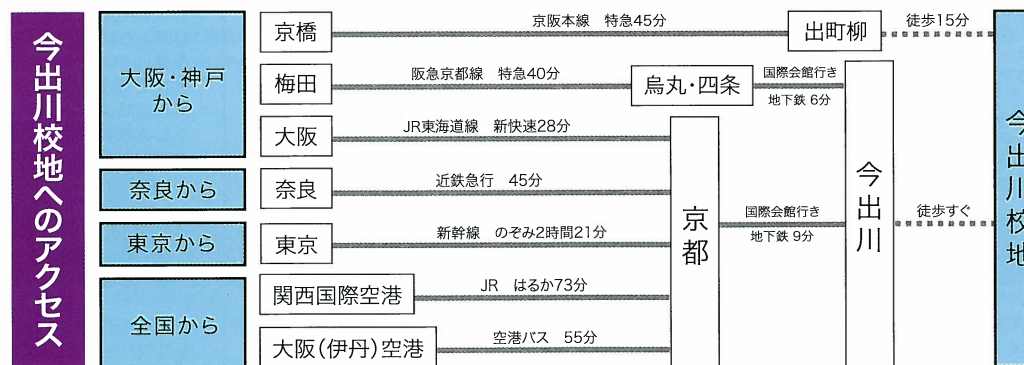
★…委員長 ☆…副委員長

アクセスマップ



■1日目■ 同志社大学 今出川校地 室町キャンパス 寒梅館
 北改札口(無人)から出口2を出て徒歩1分

■2日目■ 同志社大学 今出川校地 新町キャンパス 尋真館・臨光館
 南改札口(有人)から出口4を出て徒歩5分



お問い合わせ先

FDフォーラム担当:平井
 MAIL: fd-15@consortium.or.jp
 TEL: 075-353-9163 ※(日・月を除く9:00~17:00)
 FAX: 075-353-9101

